

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>職員全員で地域密着型サービスを念頭に置き新しく理念作りを行い、入居者様が地域の中で暮らす事の大切さを十分認識している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を共有する場面として、毎朝の申し送り時には認識できる場を設け、意識付けしている。また、毎日の気付きや反省など、一日を振り返る事で意識付けがされている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>地域住民の皆様へも広報の配布を試み、ホームの様子をお伝えする事が出来た。しかし町内会総会時に町内の方より「鍵をかけているんでしょう」「家族でないと入れないと思う」との声がきかれる。</p>	<p>地域住民の皆様にもう少し詳しくホームの様子が分かる様な工夫をし、理解を深めて行きたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地域の行事に関しては参加できるように心掛けている。町内会の夏祭りは4月総会時に、また参加させて頂きたい事を伝え、入居者の皆様も楽しみにされている。地域の皆様と交流が出来る最善の場であると考えている。キャラバンメイトとなっている職員はならず、普及活動に参加していない。</p>	<p>ホームの行事を地域の皆さんと一緒に楽しむことが出来るよう今後もお知らせし、来て頂けるよう努める。職員がキャラバンメイトとなり地域で活動して行く事が出来るよう努めて行きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員で取り組む事により各人が評価に対しての意義や目的などを理解している。また改善に向け職員間で話し合いしている。</p>	<p>思い立った所から順に始めてしまい、改善計画書を作成せずに始めてしまうことが多く改めて行きたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>報告や状況の説明に終わらず、参加メンバーの方々へ相談し、意見を頂き反映できるように努めている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>担当者はもちろんの事、役場へは足を運び、または電話で様々な事柄に対しての相談をし、適切な助言を受けられる事が出来ていると思う。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業を学び、事業内容の把握に努めていると共に、職員間でその人に必要な事の話し合いを行っている。昨年より申し立てを行っていた入居者様の後見人も5月末無事認定され、必要性和大変さを感じる事が出来たと思う。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会を設け、また参加出来なかった職員にはそれぞれ資料参照にてレポート提出してもらい、全職員が虐待について防止・発見・通報義務がある事を学ぶ事ができた。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>入居者様個々のリスクマネジメントを作成し、書面にて御家族様へお伝えできるよう努める。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>前もって知り得る物事に関しては、職員配置にて多様な要望に応える事が出来るよう努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの顔ぶれが変わらない様、また移動に関しても必要最低限とし、入居者様に混乱が生じないように配慮している。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内での勉強会の取り組みを月1回と決め、確実に学ぶ場を設けている。勉強会の内容としては、職員へ学びたい内容を聞いたり、その時々合った必要な事柄を学ぶ事が出来るように努めている。事業所外研修に関しては、参加を呼びかける、希望者を募る等少しでも多くの研修へ参加できるように努めている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>中弘南黒地区グループホーム協会を通じ、研修会・交流会へ参加する事で情報を得ることが出来るよう努めている。出席できない時には参加者より情報を聞き、現状の把握に努めている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>来園時には職員の抱えている問題はないか等、早期解決に努めると共に、ストレスを溜める事がないように話を聞いている。またレクリエーションや懇親会などで発散して貰える様、場を設けている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の自己を振り返るに目を通し、考え方や意欲等を確認している。また、学ぶ時間を聞き入れ、資格取得に向けできる限り目標達成できるよう考慮している。年1回健康診断を行い、職員の健康面にも配慮している。就業規則において、病後・産休・育児休暇等も充実し、安心して働く事ができる様配置付けている。人としての教養を身につけ介護の現場で立てればと、毎朝申し送り時には本を読み上げている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には必ず来園、ホームの様子を実際の目で見て頂きその場で話を聴き、最善な思案は何か話し合っている。御家族様へは知り得る中で生活歴や家での様子を伺い、入居前には職員が把握出来るように務めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>地域内における他の事業所にはどのようなサービスがあるかを伝えし、ご本人様にとって最適なサービスはなにかお話している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人様とお会いし来園頂き、ホームの様子を感じて頂いている。居室内には馴染みの物を配置できるように御家族様へはお伝えし、お願いしている。</p>	<p>家から馴染みの物を持ってこられる方少なく、今後は馴染みの物ならではの必要性・重要性をお伝えして行きたいと思う。</p>
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>昔の苦労話や知恵等を聴き、毎日の生活の中に取り入れている。入居者様より教えて頂き何かをしてあげるのではなく、家族となり話し、気持ちを汲み取り、共に笑い・共に泣き日々を過ごせる様努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と困っている事・気になっている事等、様々な話をし、一緒に支えていく事が出来るよう努めている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には御家族様の時間の許す限り一緒に過ごして頂く事が出来るようお願いしている。また、お茶やご飯と一緒に食べて頂けるよう勧めている。行事の時はお知らせし、できるだけ参加していただく事が出来るよう努めている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人達と会うことが出来るよう、各部落の集まりへ参加支援し、会話を楽しむ事が出来るよう努めている。		
28 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆に話し掛ける場面や居室で一対一で話を聞く等、その人の状況に応じ対応している。皆様それぞれに役割を持ち、楽しみながら行なう事が出来るよう努めている。時として険悪な状況になる事もあるが、都度会話に努め早期解決を心掛けている。		
29 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	お会いした時にはお声を掛けさせて頂き、退居後の様子や状態を伺い、困っている事や分からない事など、いつでも相談下さる様お伝えしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の会話の中で思いを汲み取るよう努めている。希望・要望に対しても実行できるよう努めている。本人の行動・言葉から気付いた事は記録し話し合っている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に出来るだけの情報を集め、入居時までに申し送ることが出来るよう努めている。御家族様へ聞くもわからない部分が多く、ご本人様との会話の中より拾い職員が共有出来るように努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日の状態に合わせ、行動や言動からも出来る事を見付け行って頂いている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人様の気持ちになり、ご本人様だったらどうしたいのかを思い、会話の中から意向を察し作成している。職員から情報収集し、カンファレンスを行っている。御家族様とは面会時に要望・意向を聞き計画に取り入れている。作成後は訂正やより良い方法を話し合い確認し決定としている。</p>	<p>意見・要望等聞き取れない御家族様との連絡、確認方法を検討していく。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しと、必要に応じて追加や中止を職員間にて話し合い、また必要に応じてはPTへ相談し、ご本人様にとって良い方向へ向かう事が出来るよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録を見てわかる様ご本人様の訴えや会話の内容を記入し、それを活かし計画を作成している。職員が気づいたことや思ったことは青いペンで記入しているが、気づきをまだうまく記入する事が出来ていない。</p>		<p>職員が気づく事が出来るよう勉強会等を通じ気づきを養って行きたい。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>介護保険サービス・自主サービス共に取り組みを行っていない。</p>		<p>事業所の方向性や方針等をきちんと取り決め、今後十分な時間をかけ入居者様・御家族様を含め、少しずつ話し合いを進めながら、検討して行きたいと思う。</p>
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>お出掛けや行事等で、ボランティアの協力をお願いしたり、近隣のお茶会のお誘いに出掛け交流を持っている。民生委員や駐在所の方にも運営会議へ参加頂き、助言頂いている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域の介護予防教室へ参加できるよう連絡調整している。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>成年後見人制度を必要とされる入居者様の相談から始まり、決定するまでの長期間に亘り、相互の情報提供・連絡調整を行う。また御家族様の状況により様々な困難な事柄から円滑に支援の継続が出来る様相談している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前より関わっている先生の居る病院へ受診できるよう支援している。他院への受診が必要な場合には御家族様へ相談し、了承得ている。受診対応は基本的には職員が行っているが、重要な検査結果や何らかの判断が必要と思われる時には御家族様にお申し送りしている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者様の状態変化に応じ、精神内科の受診を御家族様と相談、話し合い後受診している。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	突発的な症状が見られた時には主治医や協力医へ連絡し、症状・状態を伝え指示を頂いている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には情報提供書にて入居者様の日常の様子ができるようにしている。入院後御家族様と連絡し、病状の把握に努めると共に、病状・症状にもよるが、早期退院が見込まれる様であれば、御家族様・医師・ソーシャルワーカーに相談している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての方針をまだ明確に取り決めていないが、入居時点において御家族様へ意向はお伝えしている。現状としては職員の医療に関しては基より介護の知識も不足であり、まだまだ勉強することが必要で、取り組むまでは十分な時間を掛けて学んで行きたいと思う。現段階においては状態変化時は医療機関・御家族様との連絡を密に取り、支援方法の話し合いを行っている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医・ソーシャルワーカー・PTへ相談しながら状態変化時の支援方法を話し合い助言・指示を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>今までの生活を混乱なく継続できるよう情報は詳細に伝えている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>さりげない対応に努めているも、要所々でそうでない場面も見受けられる。意識の向上に努めるよう、毎日の振り返りや他職員の対応を見て気づいて貰いたいと願っている。守秘義務に関しては採用時から認識して頂いている。</p>		<p>全員が更に意識をもって接して頂けるよう、勉強会を通じ向上に努める。</p>
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>訴えや希望を話し易い雰囲気大切にしている。(じっくり・ゆっくり)また、自己決定しやすい言葉掛けを心掛けている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その時の体調や気持ちを汲み取り、声を掛けるよう心掛けている。居室より起きて来る時は楽しい雰囲気でご自分から行動されるよう工夫をしている。それぞれの行動や好きな事を把握し支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みのある場所や、行きたい所が何処なのか確認し、希望の場所へ行くことが出来るよう支援している。入居の際には何処の理・美容院へ行ってたか馴染みの店を聞いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作り時には何か食べたい物や好きな物等を聞きながら取り入れている。それぞれに役割があり進んで行われている。、時として声掛けや見守りでお手伝いして頂いている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を飲まれる入居者様には状態に応じ提供している。それぞれの好きな物「おやき」や「餅」は一緒に買いに行く事を、楽しみにされている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、状況に合わせ声掛けしトイレ誘導している。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯に関し毎日入浴は現段階においては職員配置の兼ね合いもあり難しい。時間の希望がある方へは希望に添えるよう対応している。気持ち良く入浴へ向かって頂ける様に、様々な声掛けの工夫をしている。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	臥床を強制する事はなく、眠れない入居者様とは暖かい飲み物を一緒に飲む等リラックスできるように会話に努めている。またその日の活動の内容の確認をし、見直しへ繋いでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれに役割があり、毎日の生活の中で発揮して頂いている。一人ひとりの好きなことや楽しんで出来ることを把握し、個々への支援が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る入居者様(1名)は全て自己管理されている。希望の入居者様は御家族様の了承を得2～3千円位ご本人持ちとなっている。買い物時や支払い時にはご本人様がお金に触れる場面を作り支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季間の外出は減少するが、春からは天気の良い日には散歩へ出る・畑仕事へ出掛ける等、外へ出る事を心掛けている。園庭へ自由に出、花を見たり、草取りをされている。外出は皆様の希望を取り入れている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	会話の中から、または希望を聞き友達・家族へ会いに、花を見に出掛けたり、お寺・お墓参り等出来る限り希望が叶えるよう支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時や必要時、いつでも掛ける事が出来ている。また、娘や兄弟などへ手紙を書きませんかとい出す事が出来るよう支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は一応設定されているも、御家族様には時間にとらわれることなくいつでもいらして下さいとお伝えしている。また、一緒に食事しながら過ごす事が出来る様進めている。面会時にはのんびりくつろいで頂けるようお迎えしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	万が一拘束が必要な場合には、御家族様へ連絡・承諾が必要である事を事業所内研修にて学び、職員の理解を得る事が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りを重視とし、職員間での声の掛け合いを徹底するように努めている。ホール入り口には鍵を掛けずに自由に入出りできるようになっている。但し、夜間状況に応じてはやむおえず安全確保の為掛けても良い事になっている。(居室に入ると入り口の様子が覗えず、階段転落の危険があると思われる時)		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間共に入居者様の様子を確認できる場所での見守りや一緒に過ごす事に努めている。ご本人様や周囲へ配慮し声掛けや誘導に努めている。夜間は1時間毎の巡回にて様子・状態変化へ早期対応が出来るよう努めている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	御家族様の了承を得ている入居者様はご本人持ちとし、都度安全確認を行っている。その他の入居者様は行動や言動を察し、一緒に行くなど全てを撤去するのではなく、必要に応じて使う事が出来るよう支援している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	随時話し合いは行われているが、一人ひとりのリスクに関する書類としての物が作成されていない。職員(担当者)からは想定される事(物)についてメモ紙にて提出して貰う所までは行っている。		一人ひとりのリスクマネジメントの書類作成しまとめ、事故防止に取り組んでいく。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	地域の消防署へ依頼し、全職員が救急救命心配蘇生術を学び、また緊急時の対応がスムーズに行う事が出来る様マニュアルを作成している。		定期的に練習することで、緊急時に自信を持ち対応できるよう継続して行きたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員・業者立会い、自己避難訓練年2回・消火器の使い方は入居者様も一緒に行っている。近隣や町内の協力の基、緊急通報装置への登録をお願いする事が出来、安心して暮らす事が出来ている。訓練時には町内の協力者へもお伝えし、一緒に行く事が出来る様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>内服飲み込まれてしまうまでの見守り・確実な確認の徹底。</p>
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>口腔内の清潔の重要性を勉強会を通じて学び周知できるように努める。</p>
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRS A、ノロウイルス等)	様々な感染症に対してのマニュアルがあり、分からない時いつでも見る事が出来るようにしている。また、その時々には流行しているものや、しそうなものに関しては、申し送り時に職員へ話し、気を付けるよう再確認したり、勉強会に取り入れている。面会者は基より入居者様・職員の外出の後や食事の前の手洗い・うがいを徹底している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日買い物へ行っており、冷蔵庫内の残り物の把握ができています。調理済の食材の残りは入居者様へは提供しない等取り決めている。台所内の衛生管理は毎日塩素系漂白剤で片付け、除菌掃除を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾る等明るい雰囲気作りに努めている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾りつけは季節感を味わう事が出来るよう季節や月毎に入居者様と一緒に考え、作成し楽しんでいる。狭い場所でも居心地良く過ごして頂ける様に、入居者様の個々の安心できる場面の把握(場所+寄り添いなど)を周知している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには一緒に座りのんびり会話出来るソファや座敷があり、くつろいでいる。場所は同じでも集まる入居者様の顔ぶれにより様々な楽しみ方をされている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からできる限り持ってきて頂くようお話ししているが、殆んどが新しいものや、必要最低限の物となっている。写真を飾る等し馴染んで頂けるよう工夫している。		
81 換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・湿度計の設置にて管理している。居室内は換気口の開閉にて換気している。目に触れる場所の窓や戸を開けておくと直ぐに閉められる為、事務室や台所の窓を開けるなどし、換気できるよう工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82 身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置している。その他入居者様に合わせてベッドの高さ調節や居室内手すりの設置をする等、一人一人に合わせている。		
83 わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人に合わせて、居室の戸に大きく名前を貼り分かり易くしたり、夜間に限りだがトイレの電気をつけたままにし、少し戸を開けて措くことでトイレの認識が出来るようにし、ご自分で行く事ができるような支援。汚物など自己処理できるようゴミ箱を分かり易い場所へ設置するなど、自立される為の話し合いは申し送りの時間や空き時間を活用し皆の意見を聞き支援方法を考えている。		
84 建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	狭い庭とベランダではあるが花を植えたり、畑へ植える苗の芽出し、草取りする等楽しんでいる。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個々に思いやりを持ち、毎日笑顔あふれ、笑い声のある家庭的な雰囲気的大事にしている。

色々な所へ出掛け、人とのふれ合いや花を見る、祭りを楽しむ等、様々な場面で四季を感じる事ができるよう外出支援を多く持つよう心掛けている。